

話が違おう!

竹内
介

登場人物

葛城将也(かつらぎまさや) 30歳 熱量はあるがビジョンはない青年実業家

城戸弘幸(きどひろゆき) 30歳 他人を信用できなくなった青年実業家

米山(よねやま) 50歳 娘を愛する以上に自分を愛する父

智香(ともか) 22歳 楽に生きていく道を模索している。米山の娘

角川(すみかわ) 36歳 人生に迷っている路上アーティスト

茶畑(ちやばた) 25歳 正義感の塊だが融通がきかないホテル従業員

田村(たむら) 30歳 葛城、城戸の同級生

佐々木(ささき) 30歳 葛城、城戸の同級生

一場

秋の休日。ホテルで同窓会が開かれている。コロナ禍で全員マスクをしているが盛況の様子。その中にある一つのテーブルの中心で葛城将也が立ちつくしている。

葛城 なんだよ、みんな冷たいな…

ふてくされて席につく葛城に田村と佐々木が近づいてくる。

田村 葛城！久しぶり！

葛城 え、誰？

田村はマスクをずらす。

田村 田村だよ

葛城 ああ、田村！よく俺のことわかったな

田村 当たり前だろ。こっちわかる？

葛城 もしかして…佐々木さん…

佐々木 久しぶり

葛城 久しぶり。あれだね…なんかあか抜けたね

佐々木 当たり前でしょ、十二年振りなんだから。高校生のときはメイクもしてないし

葛城 眼鏡してなかった？

佐々木 してたよ、今はコンタクト

田村 お前照れてんのか

葛城 …違うよ！みんなと会うの久しぶりすぎて、現実じゃないみたいなんだよ…あそこにいる先生、数学の小田先生だよね？

佐々木 何言ってるのよ、小田先生は国語でしょ。あの先生は小山田先生。しかも化学だし

葛城 よかった、話しかけないで。あっ！あれ美術のロスコだね、ロスコ

佐々木 そうよ、めっちゃくちゃ老けたのにそっちはわかるんだ

葛城 そりゃいじめられたから

田村 ロスコ？益子先生だろ？

佐々木 田村は美術とってなかったでしょ。ロスコっていうよくわからない絵を描く画家がいてね、益子先生、その画家の大ファンで、ロスコって呼ばれてたんだ

葛城 まだ生きてるんだ…

佐々木 それ失礼すぎ

葛城 そう意味じゃなくて、感動してるんだよ。高校卒業して十二年間、みんな生きてきたんだって。いろいろなことがあったんだらうな…

田村 葛城が今じゃ青年実業家だもんな

葛城 やめろって

佐々木 そうなの！

田村 葛城、金持ち相手の高級ホテル建てたんだ

佐々木 ホテル建てたの！あんないくつよ

葛城 三十だよ、みんな三十だろ

田村 そのホテルが大ヒットって、NHKでやってた

佐々木 NHK出たの！あんな何者よ

田村 同級生のあいだじゃ有名だぞ、葛城と城戸の二人。大金持ちだった

佐々木 すごいじゃない、葛城君！毎日楽しいでしょ？

葛城 いや…まあ…

佐々木 もっと仲良くしとけばよかったー

葛城 え？あ…いや…城戸君が金持ちって？

田村 まさか、知らないの？

葛城 ああ

田村 文房具娘ってスマホゲーム、あいつの会社を作ったらしいぞ

葛城 あのCM毎日やってるやつ？…すげえ…

田村 連絡とってないの？

葛城 ああ…

佐々木 高校の時仲良かったのにね

葛城 色々あって…そんなもんだろ。もう雲の上の人だな…

田村 葛城もすごいって、俺らとは違って、もう食うには困らないだろ

葛城 いや…

佐々木 どうしたの

葛城 コロナが出る前はよかったけど、この二年で一気にガクって

佐々木 そうか…観光業界は大変だって聞くもんね

葛城 ああ…でもさ、こういうときだからこそ下を向いてちゃいけないと思うんだ。前を向いていかないと

佐々木 なにかするの？

葛城 新しく会社を興そうと思ってるんだ。日本に夢と感動を与える会社を

佐々木と田村は顔を見合わせる。

田村 お前の行動力には感心するけど、もういいんじゃないの

葛城 いや、まだまだだ。でもな、これから越えなきゃいけないハードルがたくさんあって

佐々木 はあ…

葛城 まずは資金を集めないといけないんだ。少しでも多く

田村 …

葛城 新しい会社は、利益を優先しないからじゅうぶんな利益は出ないかもしれない

佐々木 …

葛城 でもさ、借りたお金は必ず返すから、その会社に投資してくれないか

田村 (立ち上がって)お、さゆりちゃん、久しぶり!

佐々木 うわ、結婚したんだ!葛城君、無理しなくても、今のままでいいと思うよ。じゃあね

田村と佐々木は葛城のテーブルから去っていく。

葛城 今のままでよくないから…もう…みんな、少しくらい聞いてくれてもいいだろ…

葛城のもとにマスク姿の城戸弘幸が近寄ってくる。

会場に来たばかりでどうしようかとあたりを伺っている。

葛城 よっ!久しぶり

城戸 え…

葛城 葛城だよ

葛城はマスクを外す。

城戸 葛城!久しぶりだな!ずっと連絡とりたかったんだ!

葛城 え?

城戸　なんで連絡してこなかった？お前今何やってんだ

葛城　：会社やってる

城戸　会社？作ったってこと

葛城　ああ

城戸　お前も社長か！俺も作ったんだよ会社。知ってる？文房具娘っていうゲーム

葛城　もしかして：城戸君？

城戸　え？城戸だけど

城戸はマスクを外す。

葛城は目を潤ませる。

葛城　城戸君：城戸君だ：

城戸　何言ってんだよ、お前から話しかけてきたんだろが

葛城　適当に声かけてた

城戸　お前相変わらずバカだな、元気にしてたのか？心配してたんだぞ

葛城　うん：城戸君だ：

城戸　なんだよ、調子狂うじゃねえか

葛城　ごめん。(息を整えて)さっき聞いたんだけど城戸君すごいな！文房具娘、めちゃくちゃ儲かってんじゃない

城戸　まあ、それなりに。運がよかったよ

葛城　どうやって会社建てたの

城戸　大学の同級生達とノリでたてたんだけど、ちょこちょこ抜けてって、結局創立メンバーで残ってるのは俺だけ：そんな感じだ
葛城　すごいな、みんな噂してたよ(大勢に向かって)城戸君が到着しましたよ！

しかし会場は微妙な空気。

城戸 ……なんか、避けられてないか

葛城 声かけすぎたかな…

城戸 こっち見てるの、佐々木じゃねえか？お前好きだっただろ

葛城 さっき終わった

城戸 ……そうか…それは…よかったな。葛城は何の会社やってんだ

葛城 ホテル

城戸 ホテル？どこで？

葛城 秩父の近くでさ。金持ち相手に商売してる

城戸 あのへんか…こないだ聞いたな…たしか…ビアチェッロ？とかの近く？

葛城 え、まさにそれだよ！よく知ってるね

城戸 たまたまだよ。社長連中がいいとこだって噂してたんだ。すげえなお前、よく資金調達できたな。銀行とか、若い奴に厳しいだろ、なんだ

かんだけちつけてきて

葛城 ま、まあ…あれだよ、ロスコみたいに

城戸 ロスコ？ああ、美術の！

葛城 あそこにいるよ

城戸 うわ、ロスコだ…お前ら卒業させんぞ！って

葛城 なんて怒ったんだっけ？

城戸 お前がふざけた絵を描いたからだろ

葛城 そうだった？

城戸 俺のこと、フランススコザビエルみたいに。神々しく描いて

葛城 覚えてない…

城戸 俺もやり返してお前を大仏で描いた。そしたら呼び出し

葛城 そっちは覚えてる！あつたな：若気の至りとはいえ、ふざけすぎたよね

城戸 日本史で徳川將軍全部覚えろって言われて、何代目徳川家康で全部書いたな

葛城 八代目徳川家康。生活指導に怒られて般若心経、写経させられて

城戸 そこに適当な漢字まぜてく

葛城 わけわかんない漢字多いんだもん。石へんに疑うみたいな漢字、知らないよね

城戸 石の横に頭って書いて

葛城 石頭

城戸 ほんと：いくらでもバカやったエピソード出てくるな

葛城 ああ

城戸 バカだったけど：

葛城 …なあ、実はホテルがさ

城戸 どした。あ、ごめん

そのとき城戸の携帯が鳴る。

城戸 (電話に出て)はい：お前なんで電話してきた。黙らせればいいんだ。何をやってもいい。そう言っただろ。できねえじゃなくてやる！そのためにお前に一千万も給料やってんだ。こんなくだらねえことで二度と電話してくるな。俺の時間に侵入するな！

城戸は電話を切る。

城戸 使えねえ奴だ：

城戸はすぐに笑顔に戻って。

城戸 で、なに？

葛城 …いや…あ…

城戸 ホテルがどうかしたか？あ、コロナだった？だった？でいいかわかんねえけど、そっちの業界大変じゃない

葛城 …まあ…ダメージあるよ…

城戸 大丈夫か

葛城 大丈夫に決まってるだろ。こういうピンチはチャンスに変えないと。ホテルには見切りつけて、新しい会社を興そうと思ってるんだ

城戸 へー、何やるの

葛城 夢と感動を与える会社、名付けて…ユジンドレーブ

城戸 夢と感動…

葛城 怪しい会社じゃないよ。やっぱり僕は、みんなを笑わせたりワクワクさせたり、そういうのが好きなんだよ。でもさ、今の日本って嫌な二

ユースばかりじゃない。ホテルじゃだめなんだよ、もっと多くの人に夢と感動を与えて、日本を元気にしたいんだ

城戸 なるほど、わかるけど…方法が難しいな。プランはあるのか

葛城 プランはあるんだけど…それより前だ

城戸 前？ああ、金か

葛城 ホテルでかなり負債抱えててさ、新しい会社を興す金がないんだ。もちろんただで貸してくれなんて言わない。どんな条件でも飲む。でも、

正直なところ儲かるかどうかとも断言できないし

城戸 いくらいる？

葛城 え？

城戸 お前の頼みならいくらでも貸してやるよ。もちろん限界はあるけど

葛城 いいの？

城戸 いいよ。五千万…じゃ足りないか？

葛城 いや、大丈夫だ

城戸 それくらいなら借書もいらねえよ。口座教えてくれ、明日振り込んどく

葛城 本当にいいの？絶対に返す、返すから

城戸 いいよ、なくなったたらなくなったで。利子とかもいらねえから、気を使わないでくれよ

葛城 ……

城戸 どうした

葛城 ……

城戸 なんだ、もっといるのか？一億でどうだ？

葛城 違うよ

城戸 なにが

葛城 そんな借書も利子もいらないうって

城戸 俺は大丈夫だ。金ないんだろ

葛城 ないよ。だから利子がないとか嬉しいけど…でも嫌なんだよ。友達だろ。だから、そんな平等じゃないの…だから…せめて…お返しさせて

くれよ。城戸君だって困ってることあるだろ、それをやってあげる。何か僕にもやらせてくれよ

城戸 ……

葛城 金がかかることはできないけど…たとえば…うーん…

城戸 ごめんな

葛城 え？

城戸 葛城はそういう奴だったな。ごめん、俺が悪かった

葛城 ……

城戸 金を持つとき、金をたかりに来るだけの奴、いるじゃない。なんかそういう奴への対応だったな、今

葛城 ……

城戸 さっきのは、なした

葛城 ええ！

城戸 対等な立場でお前と取引をしたい

葛城 あ：ああ

城戸 俺を感動させてくれ

葛城 感動？

城戸 俺な、感動できなくなってるんだ。嫌なことはいくらでもある、絶望もある、でも、ワクワクするような、心の底からやりたい、生きててよかった。そう思えることがないんだ

葛城 お前が？どうして

城戸 わかってたら苦労しねえよ！新しく作る会社は感動を作る会社なんだろう。俺が一番目の客になる。俺を感動させることができたなら、上限なしにお前の会社を支援してやる。もし、俺が感動できなかったら、この話はなしにしてくれ

葛城 ……わかった。僕が、最高の感動を城戸君に届ける

城戸 ありがとう、頼んだぞ

葛城 ……

城戸 ……

葛城 ……？

城戸 早く始めてくれ

葛城 え？

城戸 プランあるんだろ？早く感動させてくれ

葛城 今から？

城戸 当たり前だ。忙しくてさ。今日は久しぶりの休みだけど、次はいつになるかわからない

葛城 あー…そう…

城戸 どこで始める？早くしてくれ

葛城 じゃあ、ちょっと電話するから、待っていてくれ

葛城は立ち上がって客席を向く。

舞台上では転換が始まる。

葛城 十二年ぶりの感動的な再会からつかのま、すぐに僕は後悔しました。どうして素直にお金をもらっておかなかったんだって！新会社ユジン
ドレーブで決まっていたのは日本に感動をといて目的だけ！手段や方法なんてあとから考えたらいいやと思っていたんです。でもどうにかしな
きや仕方ない。僕は急いで知り合いの角川さんに電話しました。角川さんは会社員をやめて画家になった、変わった経歴の持ち主です。夢を追
い求めて安定した道を捨てた角川さんなら、感動というもののヒントをもらえるのでは；電話に出た角川さんは奇跡的に今日パフォーマンスを
やる予定だというじゃありませんか。これはチャンスだと思い、僕は城戸君を連れて角川さんのパフォーマンスを見に行くことにしました。電
車を乗り継いで三十分、角川さんに指定された公園に到着すると、そこには角川さんともう一人女の子がいたのです

二場

舞台上に角川と米山智香が現れる。

絵を描く用意がされている。

角川はよくわからないストレッチをしている。

葛城 すみません、角川さん、突然押しかけて

角川 ご無沙汰をしています

葛城 彼が、電話で話した友達です

角川 なるほど：感動できないと言う：

城戸 葛城から聞きました、すごい絵を描く人がいるって

智香 ええ、見たらほんと感動しますよ

角川 智香ちゃん、ハードル上げないでよ：ああ、彼女は米山智香さん。私のファンの子で最近はお手伝いもしてもらっているんです

葛城 よろしくお願ひします

角川 こういうの初めてですよ

城戸 はい、初心者です

角川 なら智香ちゃんを参考に、作品作りに参加してください

城戸 参加ですか：わかりました

葛城 角川さん、お願ひしますよ、角川さんに僕の新会社の命運がかかっているんです

角川 新会社？

葛城 はい、夢と感動を届ける会社、ユジンドレーブ。角川さんのような感動を届けるパフォーマーを集めて、みんなの心を動かし、日本を元気にするんです

角川 面白そうな会社ですね。ああ、自己紹介遅れました。私はピュアという名前で活動しています。城戸さんのために感動をお届けします。では早速始めましょう

角川は精神統一をすると、スマートフォンから音楽を流し始める。

角川は絵の具を画用紙にたたきつけるとハケで絵の具を伸ばし、絵を描いていく。

智香はハイハイ、と合いの手を入れながら角川を応援していく。

角川の絵が進んでいくが、何を描いているか具体的なものは何も出てこない。

智香は葛城と城戸にも合いの手を入れるよう促していく。

葛城はすぐに受け入れて合いの手を入れていく。

城戸は茫然としている。

角川が絵から離れる。

城戸 え、終わり？

角川は余裕の表情を見せ、絵を逆にする。

城戸 ああ、そう…

しかし、さかさまになっても特に変化はない。

角川は堂々と一礼する。

城戸 ……いう……ことでもない

葛城 ……

智香 ……すごい……傑作です！

角川 ……ありがとう

智香 絵の大部分がピュアブルーで埋められている…これは青春。そこに大胆に赤のラインで描かれた痛み、白が包み込んで…これが表しているのは

城戸 …散髪屋？

智香 感動ですよ、ピュアさんが描いた感動！これは若い人たちが躍動している感動を意味する作品なんですよ

角川 はい。この作品のタイトルは「感動」。葛城さん、いかがですか

葛城 なるほど…説明を聞いてわかりました。素晴らしい絵ですよ！すごい！この赤のラインがいいんですよ

智香 そこわかりますか、センスある！

葛城 ええ、わかります！なあ、城戸君、感動したな

城戸 ほんとか？お前無理やり感動しようとしていないか？

葛城 わからない？すごいよ…これが芸術の力か…角川さん

角川 ピュアです

葛城 ああ、ピュアさん。先ほどの新会社の話ですが…

角川 新しい会社を作られるという…

葛城 はい、新会社ができた折には、ピュアさん、力を貸してください

角川 それは社員になれということですか

葛城 はい

城戸 え、マジで？

角川 葛城さんのお人柄はわかっていますし、お手伝いしたい気持ちはありますが…一つ条件があります

葛城 なんでしょう

角川 私の背中についている自由と言う翼、これを奪わないこと

城戸 何言ってるの？

葛城 わかりました、約束します

城戸 おい葛城、待て

葛城 どうして？本当に感動できなかったの？

城戸 ああ、感動できなかった。お前なんか騙されていないか

葛城 どういうことだよ

城戸 よくわかんないけどこれは本当にすごいのか？どうみたって嘘くさいだろ。本当にすごいなら人だからもってできてさ

角川 コロナだからですよ。人が集まってもいいならいくらでも集めますよ

智香 そうよ、ピュアさんは観客のことを考えて気を使っているんですよ

城戸 角川さん

角川 ピュアです

城戸 失礼な質問かもしれませんが、あなたは画家なんですか

角川 画家、という言葉に縛られたくないですが…そうなんでしょうね…

城戸 会社員をやっていたと聞きましたが

角川 はい、以前には

城戸 ならどうして画家になろうと思ったんですか。いや、そもそも会社員に？

角川 画家として生きていく自信がなかったからです…ちゃんと説明しますときっかけは…会社で新人を任せられる立場になりました…この後輩が

なんと…口ごたえばかりしてくるんですね。本人は正論を言っているつもりなんですよ…が屁理屈なんですよ

城戸 最近の新人はそんな奴ばっかですよ

角川 でも私も任せられた立场上、強くも言えず、簡単に言うとしりぬぐいをしていたんです。ただ、取引先に迷惑をかけて謝ることもしないとき

にとうとう言ってしまったんです。会社の迷惑になるからとにかく頭を下げてくれないか、と。それが社内の倫理規定に引っ掛かりまして、パ

ワハラ…ということに

城戸 ひどい話だ

角川 それでわかったんですよ。私のことを守る気もない会社に夢も感動も奪われてたまるかって。私は私の道を進む。今では感謝しています、

この道歩む勇気をいただけただけだから

城戸 ただね、それは新会社に入っても起こりうるんですよ

角川 まあ…

城戸 芸術をやる人はわがままな人が多い。自由を大切にするとはいっても、会社に属するならば、ある程度は嫌な思いもしますよ

葛城 そんなことさせませんから！僕は、社員一人一人を大切にしたいんです、大丈夫です、任せてください

城戸 安請け合いするなって

葛城 大丈夫です、僕が社長になるんだから

角川 葛城さんならそうおっしゃると思っていました

智香 私も働かせてください

葛城 え？

智香 私、ピユアさんと一緒に働きたいです

葛城 今は大学生？

智香 はい、四年生です

城戸 四年生なら内定もらってるでしょ

智香 お恥ずかしながら…なくて

葛城たちに気づかれないよう、田村と佐々木が現れて隠れる。

田村と佐々木は葛城たちの行動を盗み見る。

城戸 (葛城にささやいて)この時期に内定ないって普通じゃないぞ、やめとけ

葛城 そうやって決めつけるなって

城戸 だっておかしいだろ

葛城 なんでも疑うの、悪い癖だぞ。佐々木のこと、昔ひどいこと言ってただろ

城戸 あいつ腹黒いもん

葛城 腹黒くないって、今日も優しい言葉かけてくれたよ

城戸 それも計算なんだって

智香 あの！内定がないのは…その…父親の…

葛城 お父さんが何か？

智香は目をうるませる。

智香 いえ…

葛城 無理しないでいいですよ

智香 父親の束縛が激しくて…私が行きたいと思った会社も、エントリーさえさせてもらえなくて。就職したいなら給料のいい会社で家の近くで働けて、残業が少なくて…条件をどんどん出されて

角川 そんな会社なかなかないわよ

智香 だから全然決まらなくて

城戸 ならこの会社もお父さん納得しないでしょ

智香 決まれば納得させます

葛城 わかった。会社ができたらという条件付きだけど、内定を出すよ

城戸 いや、お前、めちゃくちゃだろ。この子のこと何も知らないだろ。こんな話全部嘘かもしれないぞ

智香 どうしてそんなこと言うんですか

葛城 そうだよ、ごめんね

城戸 葛城は人が良すぎるんだ。社長ならもっと疑ってかかれよ

葛城 僕は彼女の気持ちがよくわかるんだ。家族の目を気にしてやりたいようにできない。かわいそうじゃないか

城戸 お前、そんな家の育ちか？

葛城 いや…だから…彼女の能力はお前見ただろ

城戸 応援してただけだろ

葛城 そこがよかった

城戸 絵描きが欲しいなら俺の会社のデザイナーに回すから。絵のことはよくわからないけどこれくらい描けるだろう

角川 綺麗な絵と、魂を揺さぶるような絵は別物です。お金をもらうために絵を描いているような人に人々を感動させるなんて崇高な使命は果たせません

城戸 あなたもお金をもらうために絵を描いてるんでしょ

智香 お金が一番か、やりがいが一番かは違うってことですよ

角川 そこがわからないから感動できないんじゃないですか？物は買うことができます。でも、心を動かすのはお金じゃできません。まずはその歪んだ価値観を変えていかないと、お手上げですよ

葛城 ピュアさん、わかってくださるのありがたいんですけど、城戸君は、わが社の大事な出資主なんで…言葉を…その

角川 出資主？ユジンドレーブの？

葛城 はい。だから彼を感動させてほしいって言ったんです

角川 …お金を出すのは葛城さんじゃなくて、城戸さん…

葛城 そうですよ。だから、城戸君が感動しなければそもそも会社はできません

角川 あー、そうなんです、はいはい…城戸さん、それならそうと早くおっしゃって下さればいいのに…感動ができない…大変ですわね…ご自身では、どうして感動ができないと思ってるからじゃない？

城戸 お金を出せばなんでも買えると思ってるからじゃない

角川 なるほど！でもね、お金も大事ですからね…えーっと…そうだ。まずは自己分析をしてみましょう。私みたいに絵を書いてみてはいかがですか？

城戸 俺が？絵を？

角川 はい、思いのままに心を絵に描いてみましょう。自分の心を見つめれば、心が動くかもしれません。さあどうぞどうぞ

角川は絵の道具を城戸に差し出す。

城戸 絵、か…長いこと描いてないな

葛城 ロスコに怒られて以来だな

角川 ロスコ！ええ！

葛城 益子先生、美術の先生の、あだ名

角川 ああ、そりゃそうですよね…びっくりした

城戸 ロスコは見たまんま描けって言ってたな…

角川 そうですよ、世界を、城戸さんが見たとおりに描いてみてください

城戸 やってみようかな

葛城 いいよ、がんばって城戸君！

角川 じゃあ音楽かけますよ

城戸は絵を書き始める。

角川は音楽をかけ、智香は応援を始める。

葛城も応援をはじめ、城戸も少しリズムに乗ってくる。

城戸の絵が完成する。

城戸 これで完成だ

葛城 おお…

角川 …はい

智香 …ええ

角川と智香は明らかに言葉を探している。

二人で集まってこそこそと内緒話を始める。

城戸 どうだ、正直に感想を言ってくれ

角川 これが、城戸さんがみた世界ですか：

城戸 うまく書けただろ

智香 うまく：

角川と智香はまたこそそと内緒話を始める。

葛城 感動できた？

城戸 感動というか：ちょっとな、ちょこっとだけ心が動いた。絵を描かせるっていうのは確かにいいかもしれない。そしてそれをプロに見てもらって評価してもらおう

葛城 まだ合格じゃない？

城戸 商売にするにはここからどう広げていくかだろ。なあ、まだかよ。色は違うけどさっきの絵と似てるだろ

智香 似てる？

城戸 ああ

角川 真似したんですか？私が見た世界を？

城戸 そうだよ、お手本だろ

角川 どうしてそういうことをするんですか、私は城戸さんが見た世界を見たいんですよ！私が見た世界を城戸さんが見てその世界を描くって、めちゃくちゃでしょ。だからか。コンタクトして眼鏡かけたみたいなんですよ。ぼやけてる！

智香 それをうまく描けてるって思うセンス：

角川 見えるものも見えないです、これじゃあ

智香 心の世界は、見えているような具体的なものがあるわけじゃないんですよ、正解とか間違いとかないのに：バカにしているんですよ、私たちが話している世界を

角川 わからないものを無意識のうちにバカにしている。だから感動できない、そうよ、そのとおりよ、智香ちゃんよく言ったわ
智香 ありがとうございます

角川 城戸さんが感動できないのは、バカだからよ。自分が理解できないものはみんなわからないと思ってるのよ。哀れよ、哀れみしか感じられ
ないわ

葛城 ちよつとピユアさん

角川 あ…

角川は開き直って。

角川 感動できましたか

城戸 できるわけねえだろ！高校以来だよ、絵でこれだけ怒られたの

葛城 僕は悪くないと思うよ…ほめるところもありますよね？

角川 芸術は受け取る人がよければそれでいいって側面もあります…ほめるところ…

城戸 …

米山 ともか！

米山が突然走りこんでくる。

米山 お前、こんなところで何やってんだよ

智香 お父さん

葛城 お父さん！

米山 携帯に電話しても出ないし、コンビニに電話したら今日はバイトじゃないって。心配するだろ！
智香 …

米山 俺にはバイトで遅くなるって言っというて…何をやってたんだ！

智香 …

米山 何黙ってんだ！答えろ！

角川 お父さん、そんな剣幕じゃ智香さん話せませんよ…

米山 あんた誰？

角川 ピュアと言います。画家をやっています…

米山 画家？

角川 今日は私の仕事を手伝ってもらっていました。お父様のお気持ちもわかりますが、智香さんも二十歳をこえた大学生ですし、あまり束縛されるのも…

米山は角川の話を見かねず、城戸が描いた絵を見ている。

米山 これ！智香！お前の部屋に飾ってる絵、これだろ。これ買ったのか？わけわかんない絵

智香 買ってない

米山 うそつけ

智香 買ってないって。それ書いたのその人

智香は城戸を指さす。

城戸 それは私が、絵の体験で書きました。ピュアさんが描いたのはその裏にあります

米山 ややこしいんだよ！

米山は城戸の絵をどけて角川の絵を見る。

米山 一緒じゃねえか！
智香 どこがよ、全然違う
米山 色も、線も、お前これとこれ逆にしたらわかるか？わかんねえだろ
智香 わかるに決まってるでしょ！
城戸 俺はわかんねえな
智香 私のことはいい加減ほっといてよ！就職決まったから。お給料もらったらうち出る
米山 お前が就職？どこの会社だよ
智香 (葛城をさして)この人の会社。ピュアさんも働く、この人がオーナー
葛城 予定ですけどね
米山 何をする会社だ
智香 夢と感動を作る会社。私にピッタリ
米山 何言ってるんだ！夢とか感動とか言ってる会社はだいたい詐欺なんだよ！お前は若いから知らないけど、世の中ってのはそりゃ怖いところなんだぞ。お前は騙されてるんだ
智香 勝手なこと言わないでよ。もう決まったんだから
米山 誰だ、誰が智香をだましたんだ
葛城 だましてなんかいません。彼女が私の会社に必要な人材だと思って
米山 どのあたりが？お前は智香の何を知ってるんだ
葛城 それは…
米山 ほら見ろ。適当なこと言ってこき使おうと思ったんだろ。警察呼ぶぞ
葛城 え！
智香 お父さんやめて
米山 呼ばれたくなかったら謝罪しろ、謝罪を

葛城 謝罪って

城戸 警察呼びたかったら呼べよ。うちにも電話くるんだよ。課金しすぎた子供の親が払わねえぞ、詐欺だろお前ら！つてな。クレーマーはほつとく、相手しない、それが一番だ

米山 お前、俺をクレーマー呼ばわりするのか

城戸 ああ。謝罪って、金が欲しいだけだろ

米山 そんなこと言っつてねえだろ！俺はな、誠意がほしいんだ

城戸 そういうね、目に見えないものを要求されても困るんだよなあ

米山 夢と感動を作る会社なら、謝罪くらいお手の物だろ

城戸 ああ、なるほど…(葛城に)たしかにおっさんの言うとおりで。夢と感動を作るなら謝罪くらいお手の物だ。いや、こっちのほう金がなるかもしれないぞ

米山 おいお前ら

城戸 すみません、今対応を協議してありますのでしばらくお待ちください(葛城に)感動とかやめて謝罪の会社にしなにか

葛城 いやだよ。なんでお前楽しそうなんだよ

城戸 楽しくなってきた

葛城 え、もしかして感動したか

城戸 …確かに胸はおどってるなあ

葛城 本当？(米山に)ありがとうございます

米山 は？

城戸 違う違う、これは俺が求めていた感動じゃない。ああいう無茶苦茶な奴を相手にするのが久しぶりなだけで、普段使わない頭の部分が活性化してるんだ…

葛城 なるほど

城戸 …そうだ、美術の時間だ…ロスコも同じこと言っつたぞ。俺たちの卒業危機

葛城 ふざけすぎて単位やらんぞつて言われたやつ？

城戸 すみませんでしたって言っても誠意がないとか言つてさ。お前と俺とロスコで料亭行ったよな。つるきちとかいう料亭

葛城 ああ、大変だった

城戸 美術の教師の分際で卒業させねえとかさ、よく言えたよな

葛城 城戸君が怒らせすぎたんだよ

城戸 いや、お前だろ

葛城 城戸君だよ

城戸 お前だって

葛城 城戸君だって

米山 まだか！

城戸 もう少々お待ちください！……まあどっちゃでもいいや。なぜか俺たちで接待して来いって親に言われたんだよな……今でも謎だ……

葛城 ……

城戸 つるきち、一人五万とかの店だぞ……うちの親に払えるわけないのに……

葛城 ……

城戸 謝罪と言えば料亭なのかな……あ！

米山 いつまで待たせるんだ

城戸 お待たせしました！

城戸の笑顔に他の面々は息をのむ。

城戸 長らくお待たせして申し訳ありませんでした。話し合いの結果、ユジンドレーブ、誠意を持って謝罪することといたしました。今からホテル、ビアチェットロまでご招待差し上げます

葛城 え！

城戸 ホテルビアチェットロはここにあります葛城君が社長を務める富裕層向け高級ホテルです。そこで満足いくまで接待させていただきます

葛城 どういうこと？

城戸 行きたいんだよ、お前のホテル。そこで謝罪もできるし、俺が金を落とすこともできる。苦しいんだろ、一石二鳥だ…もちろん、ホテルまでの費用はすべて私が持ちますので、今しばらくお待ちください

城戸はどこかに電話をかける。

佐々木と田村は目を見て頷くと去っていく。

城戸 ああ、俺だ…なに謝ってんだよ、違うって。今からハイヤーを用意してくれ。一番高級な奴だぞ、わかったか！

葛城は客席に体を向ける。

葛城 こうして僕たちは城戸君が呼び出したリムジンでホテル、ビアチェツロに向かうことになったんです。だだっぴろいリムジンの中は城戸君の笑い声と時折智香さんが発する、すごい！の一言以外無言でした。あれだけわめいていた米山さんもリムジンが来た途端逃げようとしていました。はたから見たら誘拐です。僕はずっと電話していました。ホテルにです。今から五人でそっちに向かうから部屋とレストランをおさえて。ただ何回電話をかけても

茶畑が現れる。

茶畑 本日は満室です。レストランも予約で埋まっています

葛城 なんとかならないか

茶畑 なんともありません

葛城は客席を向く

葛城 茶畑っていうホテル一番の問題社員が電話に出るんです。他に動ける社員はいない。人件費を最大に削ってきたツケですね。僕たちをまともに対応できる人間がいらないんです。それでもリムジンはスピードをあげてホテルに向かいます。そして二時間もしないうちに僕たちはホテルについたんです…

三場

ホテルビアチェッロのロビー。城戸と角川は落ち着いているが、米山は雰囲気におされている。智香はあたりを珍しそうに見ている。

城戸 たしかにいいところだな。お前が建てたって聞くだけで感動しそうだ

智香 こんなホテル初めて：

葛城 茶畑さん！

角川 茶畑？

角川が顔を向けた瞬間茶畑が現れる。

茶畑を見たとき角川は隠れる。

茶畑 ようこそビアチェッロへ。検温と消毒のご協力、お願いします

茶畑は検温と消毒を手際よく行いながら、葛城のみぞんざいに扱う。

葛城 五人、レストラン本当に無理？

茶畑 だから満席ですって

城戸 満席？盛況じゃないか

葛城 今日ただだよ

茶畑 毎日ですよ

葛城 ランチが終わったテーブルもあるだろ

茶畑 ありますけど、ディナーの準備があるんで

葛城 このホテルの命運を握るようなお客様なんだよ

茶畑 大統領が来ようが赤ちゃんが来ようが、ビアチェツロはすべてのお客様を平等に扱います。特別扱いはできません
葛城 社長が言ってるんだよ！

茶畑は最後に葛城の検温と消毒を行おうとする

茶畑 いくら社長でも、このホテルにはルールがあるんです。それ以上私にルール破りを押し付けるなら、パワハラで訴えますよ

城戸 なんかさっき聞いたみたいな話だな

角川 なんでいるのよ…

城戸 このロビーの喫茶店なら問題ないよね

茶畑 もちろんです。今の時間ならみなさんゴルフやアクティヴィティーに出られていますのでゆっくりくつろげますよ

城戸 じゃあ、座りましょう。アイスコーヒー、人数分…ああ、アイスでいいよね？

各自顔色をうかがいながら微妙な了承。

城戸 本当ならフレンチのフルコースでもご馳走したかったんですが…アイスコーヒー五つ

茶畑 かしこまりました

茶畑は飲み物の用意に向かう。

城戸 どうぞ、座ってください…えっと、こっちが上座なのかな…米山さん、どうぞ

米山 …

城戸はロビーに飾られている絵に気づく。

城戸 もしかしてあれ、ピユアさんの絵ですか

角川 違います。あれは覆面の画家ミスターエックスの作品で、トラという…つまりその…

城戸 高い奴だ

角川 はい、五千万は下らないと思います…

米山 五千万！

城戸 よく知っていますね

角川 私が画家を目指すきっかけになった絵ですから…

智香 あ！言っていましたね、トラっていう絵がすごいって…

葛城 ピユアさんはこの常連さんだったんです

智香 おっしゃれ…

米山 こんなとこの常連！

城戸 この絵のよさ、わかるの？

智香 私はピユアさんの絵の方が好き

城戸 すごい、ピユアさん大金持ちだ

角川 値段がそのまま良い絵かどうかを表しているんじゃないんです。十億円の絵とありますが、それは十億円で買う人がいるってだけなんです

茶畑がコーヒを持って現れる。

角川は必死で顔をそむける。

佐々木と田村がこっそり現れて茶畑に注文する。

佐々木 こっちもアイスコーヒー二つください

茶畑 はい、少々お待ちください…(葛城たちのテーブルに)お待たせしました

茶畑がアイスコーヒーをテーブルに置く。
城戸はすぐに口をつけるが、他の面々は顔を見合わせる。

茶畑 ご請求は

葛城 いいよいいよ

茶畑 オーナーもちですか？アイスコーヒーが五つで七千五百円です

米山 七千五百円！

城戸 俺が払うよ。カードでいいだろ

茶畑 もちろんです

葛城 いや、せめて僕のは

茶畑 お支払いになります？

葛城 なんて自分のホテルで

茶畑 注文したら支払う、当たり前です

城戸 気にすんなくて、これくらい

米山 あの、お手洗いは

茶畑 あちらです。ご案内しますね

米山 すみません、ちょっと、おなかが…

茶畑に連れられて米山はトイレに向かう。
米山の様子を見て城戸は笑う。

城戸 つるぎちのときと一緒だな…

葛城 そうだった？

城戸 ああ、ロスコも何回もトイレに行ってたよ…人間って結局そういうもんなんだ。あれだけやかましく言ってきたのに、こういう雰囲気だけで静かになって…腹くくって闘おうってわけじゃない…やっぱ人間って嘘ばっかだ

葛城 闘いたかったの？

城戸 いや…なんなんだろうな…心は動いてるけど、むなしさがさ。ロスコがトイレに行くの見送ったときも思ったんだ。結局卒業させんぞとか言ったのは、ただの嫌がらせだったんだなって…

角川 ロスコって美術の先生よね

葛城 はい

角川 ならきつとトイレに行きたくて行ってたのよ。つるきちのトイレの前、小さな美術館みたいになってるでしょ。美術が好きならたまらないのよ

葛城 そうなんですか

角川 思いもよらない真実も…あると思いますよ

茶畑がアイスコヒーを持って横切る。

城戸 でも少なくともあのパパは、緊張でおなか壊したただけだろ

智香 間違いないです

城戸 じゃあとりあえずこの場を収めよう。感動はそれからだ。(葛城に)ちゃんと誠意を見せるんだぞ

葛城 ああ

米山が帰ってくる。

城戸 早かったですね

米山 ひっこみました

茶畑が現れて葛城のそばに立つ。

葛城 何してるの？いいよ、向こうに行つて

茶畑 大事なお客様ということで、ラウンジを任されている身として立っています。他にもお客様がいらっしゃいますし

葛城 あの、向こうに

茶畑 それは命令ですか

葛城 いや、いいよ。いいからそこで邪魔しないで

葛城は角川と並んで米山に対する。

角川は茶畑に顔を見られないよう注意している。

葛城 このたびはお父様にご相談もなく智香さんの就職を決めてしまい申し訳ありませんでした

茶畑 (城戸に)意味がわからないんですけど？

城戸

角川 智香さんにお父様の許可なしに絵を売ってしまい申し訳ありませんでした

茶畑 (城戸に)ここに来る前に何があったんですか

城戸 シー

米山 いや、顔をあげてください。私も言葉がすぎました：実は、智香は妻を失ってから私一人で育て上げた娘でして、なんというか：大きくなるにつれて、どう愛していいのかわからなくて：過干渉と言うんですかね、守ってあげたいという気持ちが大きくなって：ついつい皆様にき

つい言葉をかけてしまいました

葛城 そうだったんですか：いえ、謝らないでください

茶畑 (大きくうなづいて) 一人で育てるって大変ですもんね…

智香 私もいけないんです。父との距離がわからなくて…もつと話していればよかったです、ピュアさんの絵のすばらしさとか、将来の夢についてとか…家にお金を入れなければいけないのはわかっていますが、バイトもせず遊んでいる友達とかいて…いえ、言い訳ですね、無断でバイト休んでごめんなさい…

米山 いや、疲れていることに気づけなくてごめん

角川 智香さん、本当に疲れているんだと思います。お父様には理解できないかもしれませんが、私なんかの絵でも救える魂があるんです。葛城

さんの会社は智香さんのような迷える魂を救う会社なんです

米山 そうだったんですね、わかりました。ごめんな、智香

智香 ううん、いいのよ、お父さん

葛城 ピュアさんの言う通りです！そうです、僕が作りたい会社は魂を救う会社なんです！

茶畑 (感動して) 素晴らしいです！親子の絆！素晴らしい！

茶畑は角川の顔を見ようとすが目が合わない。

葛城 城戸、これこそが感動だよな、感動しただろ

城戸 いや…嘘くさい

葛城 どこがだよ

茶畑 そうですよ！これで感動できないなら、よっぽどひねくれているんですよ

葛城 茶畑さん！

米山 本当に感動しました、葛城さん

葛城 ありがとうございます、米山さん

米山 よろしければ私にもお手伝いさせてください

葛城・智香 え？

米山 私も感動を産みだしたい。葛城さん、私を雇ってください

智香 何言ってるのよお父さん

葛城 米山さん、今のお仕事は？

米山 お恥ずかしいですが、娘との時間を大切にしようとする、どうしても会社とぶつかってしまい…葛城さんの会社なら愛情をかけて私たち親子を見守ってくれるだろうと

葛城 それは約束します…わかりました、会社ができた折には力を貸してください！

城戸 はあ！

葛城 一緒に感動を世界に発信していきましょう！

米山 はい！

城戸 そんなおっさん何の役に立つんだよ

葛城 人は多い方がいい！

城戸 え、何言ってるの？え、俺がおかしいの？

智香 おかしくないです、社長、ちょっと考えなおしましょう

葛城 照れくさいのはわかるけど、すぐ慣れるって

智香 お父さん、芸術とかは苦手じゃなかった

米山 苦手だ。でも今から勉強すれば間に合う

葛城 そうですね、人生勉強ですからね

米山 はい！

智香 若い会社だよ。年下によおっ！とか言われるのよ

米山 覚悟の上だ

葛城 私はもちろん敬意をもって話しますし、周りに変なこと言わせません

米山 いえいえ、何もかも、人生は勉強です

智香 お父さん…本気で来る気

米山 ああ。冗談を言っているように見えるか

智香 社長、本当に雇う気ですか

葛城 もちろんだよ

智香 そうですか：

智香はアイスコーヒーを一気に飲み干す。

城戸 お前、本当に全部信じているのか？お前はバカなのか

葛城 信じないと何も始まらないだろ

城戸 それで会社が成立するのか

葛城 そういう会社を作りたいんだよ！

智香 社長

葛城 はい！

智香 うちの父、信じちゃいけませんよ

葛城 え？

茶畑 今なんて言いました？

智香 この人、今は猫かぶってますけど、さつき公園でわめいていたのが本性ですよ。雇ったら絶対に後悔しますよ

葛城 よくわからないな、言ってることが

智香 まあすぐに喧嘩してやめると思いますが、嫌な思いしますよ

米山 ともちろんやめよう

智香 私との時間を大切に？よく言えたわね。会社をすぐに辞めなきゃいけないのは誰でもかかれでもすぐに喧嘩ふっかけるからでしょ。年下はも
ちろん目上であろうが社長であろうが！

米山 ともちろん何言ってるかパパわかんない

智香 ふざけないでよ！今日だってどうしてバイト先に電話したの？私を探したの？

米山 ともちゃんがどこにいるか心配で

智香 どうせ飲みに行くお金がなかったんでしょ！金貸してって言おうとしたら私がいなくて、ちょうど一緒にいたこの人たちにいちゃもんつけて金とろうとしたんでしょ！

米山 お父さんは、そんなこと、したことあったかな？

智香 毎月毎月やってるでしょ！私がなんのためにバイトしてると思ってるの、お父さんの飲み代を稼ぐためじゃないのよ！

葛城 米山さん、本当ですか？

米山 あー…まあ…一部…

智香 全部だろ

米山 …ほぼ…ほぼ…全部

葛城 話が違うじゃないですか…

城戸 だから信じるなって言ったんだ

葛城 でも、変わりたいって思いがあれば

米山 はい、そうなんです。私は変わりたいんです！

智香 今更無理でしょ

角川 智香さん、私にもよく相談していました。お父さんが大変だって。どれだけバイトしても暮らしが楽にならない。智香さん、最初に私の絵を見たとき、そこに自由があるって言ったんです。お父さんと一緒に職場じゃ、智香さん可哀そうです。智香さんをそろそろ自由にさせてあげてください

葛城 僕は米山さんを信じたいんですが…智香さんがそこまで思っているんなら…

米山 …そうですか…残念だ…

葛城 すみません

米山 いや…でもいいのかな…智香ね…私の娘なんですよね…

葛城 どういうことですか

米山 みなさん、この子が苦学生みたいに思っているみたいですが…中学も高校もまあそれなりの進学校に通ってたんですよ。小学生のときに、大金払って塾に通わせてね

智香 何言うのよ

米山 予備校にもたいがいお金を払いましたよ…どうなったっけ？

智香 …

米山 一回も行かなかったんですよ。出席だけ友達にとってもらってたらしく。びっくりしました。もちろん成績は上がらず、志望大学にも行けず、なんとかひっかかった大学でも成績は最低、でもブライドは高くて志望する会社は面接すらさせてもらえない、門前払いばかり、いや、そもそも卒業できるのかな？

智香 ともか、何言われてるかわかんない

米山 バイトはよくしてます、お金大好きですから。私は家賃とか学費とか保険とか払ってますからね、私より智香の方がお金持ってるんですよ。だから借りるんです、もちろんちゃんと返してますよ

葛城 ほんとうなの？

智香 ま…まあ…

米山 心配されるようなことばかりする娘だから、私も心配するんですよ。葛城さんみたいにこんなホテル作るような力があれば心配しませんよ

智香 私だって、お父さんにこんなホテルを経営するような甲斐性があれば、もっと楽に生きてるわよ！

米山 俺は最低限度の生活はお前にさせてやってるぞ！大学だって俺の金で行ってるんだろ！

智香 おあいにくさま！明日にでも大学をやめて葛城さんの会社に入るからもうそんなこと言えませぬ

葛城 え？

米山 許されるわけないだろ！

智香 なんでよ、大学に行かせたのも就職させるのが目的でしょ、目的達成できたんだからもういいじゃん

米山 それで終わればいいけど、こんなの一生続くような会社じゃねえだろ

葛城 ひどい

智香 そんなのやってみないとわからないじゃない

米山 三流大学からでも、ここよりはましなところあるだろ。ちゃんと就職活動しろよ

智香 就職活動は終わりよ、決まったんだから

米山 だからダメだって！

葛城 あの、すみません

智香 はい、なんでしょう社長

葛城 話が違います。大学はさすがに卒業しておいたほうがいいと思います

智香 どうしてですか

葛城 あと数か月でしょ。ちゃんと卒業して、四月からわが社にきてください

智香 葛城さんは、私と言う人となりを見て採用してくれたんじゃないんですか？どこの大学を出たとかそういうことが大事なんですか

葛城 ……

智香 ユジンドレーブは夢と感動、新しい価値観を創造する会社だと思うんです。その社長が学歴なんていう古い価値観に縛られてるんですか？
そんなんでこれからの新しい時代の、新しい価値観を作るなんてできるんですか

米山 へりくつ言うな！大学を途中でやめるなんて許されるわけないだろ。それこそ、母さんがどう思うか

角川 お父さん、それはずるいんです。亡くなった人を出さないでください。私たちは今を生きているんですから

智香 ピュアさん

角川 いいのよ、私が言ってあげる

智香 違います、お母さん、死んでません

角川・茶畑・葛城 え？

智香 お父さん、お母さんのことすぐに失ったとか言いますが、言葉のまんまで、お母さん愛想つかして出ていっただけです。居酒屋とかで妻を失ってっていうと、たまに同情されて飲み代まけてくれたりするんで、癖になってるんです

茶畑 話が違うじゃないですか、さっきの涙返してください

角川 そうですよ。よくそんなこと言えますね

米山 そっちが勝手に勘違いしただけだろ

茶畑 勘違いさせるように言ったんでしょ。そりゃ娘さん嫌がりますよ。さっきまではどっちもどっちでしたけど、百対ゼロでお父さん悪いです
米山 どうせ私はろくでもない親父ですよ。あー、こんなことなら自分の金で飲みに行つてりゃよかった。ビールないのか
茶畑 ありますよ、少々お待ちください

用意に向かう茶畑を葛城は止めようとするが、智香がたたみかける。

智香 葛城さん、すぐに働くのはだめなんですか？大学を出ないと私には価値がないんですか

葛城 いや…そうだな…

角川 社長、ここは勇気をもって！だいたい企業が新卒を重視して採用することじたいがおかしいんですよ。良い人材がほしければ、インターネットを活用すればいいんです。そのとき学校がどこかなんて関係ない、男も女も関係ない、今までひきこもっていいようが、会社をクビになっていようが、その人の能力そのものを判断すればいいんです！

城戸 もうさ、いい加減薄っぺらい会話やめないか？良い人材ってのは会社に利益をもたらす人間のことだ。ユジンドレーブで働きたいなら何ができるか言えよ

智香 全力でお客さんを応援します

城戸 それがいくらの金になるんだよ

葛城 いいじゃないか、それは社長が考えることだ

城戸 お前よくそれで社長がつとまるな。この世は騙しあいだ、こいつがどうしてすぐに働くって言うのかさえお前気づいてないんだろ

葛城 どういう意味だよ

城戸 卒業できないからに決まってるだろ！今の会話で気づかないってどれだけめでたいんだよ

葛城 ほんとに？

智香 え…

城戸 じゃあこう言えよ、すぐ就職でいいから、今の成績証明書持ってこいって

米山 お前こないだ、留年なんかしないってたんか切ったよな

智香 …ごめんなさい

米山 俺はもう学費払わねえぞ、自分で払えよ

茶畑がビールを持って現れる。

角川 いいじゃないですか、卒業しなくても。葛城さん、これはチャンスですよ。学歴を重視する社会の悪しき風潮に一石を投じましょう。智香

さんのようなすぐれた人材が、まだ無名のユジンドレーブで働き、幸せをつかめば、小さな一歩かもしれないませんが社会が少し変わるでしょう

城戸 だからこの子になにができるんだ？

角川 たとえば、智香さんには芸術を感じる感性があります

茶畑 生ビールです。三千円です

城戸 今日は俺が払うから

葛城 あのね、大事な話をしているんだからお酒はいらないだろ

茶畑 いつもは売り上げ売り上げって言うてるじゃ…

茶畑は角川の顔をじっと見つめる。

葛城 どうしたの？

茶畑 …

角川の演説は続いている。

角川 芸術を感じる心、これは大学で勉強をしたからといって身につくものではありません。いや、むしろ学んだことが目を曇らせるかもしれません。せん。効率的な教育、利益追求の世の中、そんなものになじめばなじむほど損得だけを考える人間になり、感動する心は消えていきます。智香

さんという汚れを知らない人材には、日本が失ってしまった価値がある！世の中、お金がすべてじゃないんです！

茶畑 お前は金の亡者だろうがー！

全員が茶畑の顔を見る。

角川 あ…

茶畑 さっきから変な奴だと思っていただけ、まさか角川さんだったとは…金がすべてじゃない？どの口が言ってますか

葛城 すみません、うちの従業員が失礼なことを…茶畑さん！

茶畑 私この人と働いてたんですよ

葛城 え？

茶畑 角川さんのどことがピュア？まったく逆！どちらかというどブ川さん！

葛城 ピュアさんは仕事をやめてまで画家になった苦労人なんだよ

茶畑 仕事をやめて？クビになったの間違いでしょう

葛城 それは、部下にはめられてパワハラの疑いを

角川 葛城さん…

葛城 もしかしてその部下って…

角川は頷く。

茶畑 私が、あなたをハメた？こっちの不手際で納品の数を間違えたのに相手のせいにして言ったあれですか？町工場にそっちが桁を間違えたことにしろ、でないど取引は中止だ、そう言えってやつですか？そんなの嫌だって私が拒否したときに、お前は言うこと聞いとぎゃいんだって言ったのはパワハラじゃないんですか？

角川 ピュア、何のことかわかんない…

葛城 色々事情があったんじゃないかな

茶畑 それがバレて会社もクビにしたかったけど、あなたが裁判起こすぞっていうから、退職金も払って額も上乗せして、ようやくやめていったんでしょ。これが金の亡者でなくてなんですか？

角川 突然収入がなくなると大変でしょ

茶畑 二千万くらいありましたよね、あなたの給料？私の給料の三倍はあった

智香 パパの五倍よ

米山 ……

茶畑 それでお金がないって。しかも、ほかにも相当な数の取引先を会社の名前で脅して、裏からお金もらってましたよね。私が仕事引き継がされたんでよく知ってるんです。まあ、それを全部表に出してたら、最終的に私もクビになったんですけどね

角川 ……

葛城 ピュアさん、本当ですか？

角川 まあ…

葛城 話が違うじゃないですか。新しい会社でそんなことされたら信用はがた落ちですよ

角川 今は違うんです！会社員のときの汚れた心が、絵描きになって変わったんです。確かに給料はたくさんいただいていましたが、正直あの仕事にそこまでの価値はありませんでした。もうあんなあくどい世界には戻りたくないです

米山 智香に絵を売ったのもあくどいんだろ？

角川 絵を売ったのは確かですけど、ほぼ材料代だけです

米山 いくらだよ

智香 お父さん！

角川 五千元です

米山 五千元って大学生にとってどれだけの金だと思ってるんだ。こいつがどれだけ汗流してバイトしていると思ってるんだ

智香 お父さんが一回に取っていくお金じゃない

角川 智香さんにとっての五千元の価値はじゅうぶん承知して、その覚悟で絵を描いているんです

茶畑 五千円なんてランチにもならないわって言っていましたよ、この人

角川 だから全部昔の話！今の私は違うの！葛城さん、私のこと信用してくださいますよね、私の絵を見たらきれいな心がわかりますよね！

葛城 ……

城戸 騙されるなよ、こんだけ必死なの、画家の暮らしが相当きついんだ

角川 違います、お金なんて関係ない、私は人を幸せにする仕事で生きていこうと決めたんです！

茶畑 時給五百円ですよ。十時間働いてもランチ代になりませんよ。それでも問題ないんですか

角川 え？

茶畑 私の給料を時給に換算するとそんなものです。それでもやろうと言えますか、金の、亡者、だった、あなたが！

葛城 その話はやめてよ、今こういう時期だからね

茶畑 赤木さんに聞きましたよ。五年働いてるけど給料があがったことないって

葛城 ……

茶畑 それでいてやらされる仕事はどんどん増えて、どれだけワンオペで回せて言われているか。話を聞いてほしいわかりましたよ、新しい会社を作るんですね、でもね、そんなお金があるならまず私の給料をあげてください

角川 葛城さん…話が違いますよ。時給五百円で…アルバイトしたほうがマシですよ

城戸 金じゃないって言ってなかった？

智香 いくらなんでも限度がありますよ

角川 そうですよ、従業員をただのコマとしか見てないんですよ

米山 社長なんてそんなもんだよ

茶畑 違います！私が見なさんに言いたいのはそういうことではありません。角川さん、どうして私がここで働き続けているかわかりますか？

角川 ……他にいい条件のところがないから？

茶畑 バカにしてるんですか？私、あなたより一回り若くて、業界の経験豊富で悪さもしていない。いくらでも転職先はありますよ

角川 ……

茶畑 口先だけの人にはわかりませんよね。簡単なことでしょ。このホテルが好きだからですよ！ラウンジでお客様と他愛のない話をして、感謝

の言葉をいただいて、知らない世界の話を聞いて、休憩時間には自然の中を散歩して、まかないのご飯もおいしいし、温泉にもつかれる。一緒に働いている人もいい人ばかり。最高じゃないですか

葛城 茶畑さん：

茶畑 だから、こんな時給でも働いているんです。それが、お金じゃないってことでしょ！

葛城 ありがとう……。茶畑さん、一言多くて腹が立つこともあるけど、仕事に熱意があるし、手際もいいし、本当に頼りにしている。こんな給料しか出せなくてごめん。できるなら給料を二倍でも、三倍でも、してあげたい

茶畑 待ってください。私が、社長に言いたいのはそのうちのことではありません。できるならじゃなくて、二倍、三倍の給料を払ってください！
あなたも、従業員の善意につけ込んだ、金の亡者です！

葛城 違う！僕はそんなじゃなくて：

茶畑 いくら思っても、やらなければ一緒なんです！

葛城 できないんだよ！

葛城は全員に対して頭を下げる。

葛城 このホテルを経営しているのは：僕じゃないんです

茶畑 え？

葛城 名義こそ僕の名前：なんですけど：建てたのは親です。僕が社長と言っても、実質すべての決定権は親にあって、僕はただ、言われたまんまにしているだけなんです

城戸 葛城のお父さんって何者なんだ？

葛城 ホクオーっていうホームセンターあるじゃない。あそこの社長

角川 あの、そこら中に店がある？

葛城 はい

米山 パパとママにホテル建ててもらえるって、そりゃ夢みたいな話ができるわけだ

城戸 このホテルの経営が苦しいって言うのは…

葛城 ごめん、嘘。もちろんダメージはあるけど、もともと国内の富裕層向けだし、コストカットもすごいから…赤字にはなっていない

城戸 お前にしちゃあ、ちゃんとしてると思っただんだ…

葛城 だますつもりはなかったんだ。会社を作りたいって思ったのは本当だから

城戸 なんて親に頼まないんだ？

葛城 自立したいって伝えたら、会社をおこすにはまず金があるぞって言われた。お前にその金を集められるのかって。親の名前を出さずに資金を集められるのなら勝手にしろって…

城戸 …

葛城 色々な知り合いにあたってたよ。でも誰も首を縦にふらなかった。僕がホクオーの社長の息子だって知ってる人も、親が手伝わらないなら金は貸せないって。同窓会に行ったのも誰か貸してくれないかなって思ってた…

城戸 …話が違うじゃねえか

葛城 本当に、ごめん。だから、城戸君が条件つけずにお金を貸してくれるって言ったとき、心苦しかった。だから、何かしてあげられたらって

城戸 どうして最初からほんとのこと言わなかったんだよ！

葛城 ごめん…

城戸 お前が本気で苦しくて、なんとかしたいって本気で思ってるって勘違いしただろ

葛城 本気で苦しいよ！本気で抜け出したいと思ってるよ！みんな幸せになってほしいって気持ちもずっとある！

城戸 それは知ってる。お前は昔からバカだったよ。でも焦りすぎだよ、もっと準備しろよ、お前にあるのは気持ちだけだろ

葛城 気持ちだけで会社を建てちゃいけないの？城戸君は、どうだったんだよ

城戸 俺は…大学の奴らと自分たちが作ったアプリを世界中の人が使うようになったら面白いな…って。ああ、確かに俺も気持ちだけだった。でもお前のやってることは現実的じゃない

葛城 最初はみんなそうだろ！現実じゃありえないことを目指すからわくわくするんじゃない、面白いんじゃない

城戸 葛城…

葛城 高校卒業したときに、十二年で大金持ちになってるって思ってた？十二年会えなくなるって思ってた？ずっとずっとバカみたいなこと言い

合いながら一緒にいるって思ってた？酒もまともに飲めないこんな世界になるって想像してた？現実じゃありえないことしかこの十二年
起こってないじゃないか！

城戸 …俺はちよつとまともになりすぎたのかな…

葛城 …

城戸 バカに戻って会社をやるのも悪くないのかな

葛城 え？

城戸 無駄なことに金使っちゃいけないって法律もないし…

葛城 城戸君…

葛城は全員に対して頭を下げる。

葛城 このホテルを経営しているのは…僕じゃないんです

茶畑 え？

葛城 名義こそ僕の名前…なんですけど…建てたのは親です。僕が社長と言っても、実質すべての決定権は親にあって、僕はただ、言われたまん
まにしているだけなんです

城戸 葛城のお父さんって何者なんだ？

葛城 ホクオーっていうホームセンターあるじゃない。あそこの社長

角川 あの、そこら中に店がある？

葛城 はい

米山 パパとママにホテル建ててもらえるって、そりゃ夢みたいな話ができるわけだ

城戸 このホテルの経営が苦しいっていうのは…

葛城 ごめん、嘘。もちろんダメージはあるけど、もともと国内の富裕層向けだし、コストカットもすごいから…赤字にはなっていない
城戸 お前にしっちゃあ、ちゃんとしてると思ったんだ…

葛城 だますつもりはなかったんだ。会社を作りたかって思ったのは本当だから

城戸 なんで親に頼まないんだ？

葛城 自立したかって伝えたら、会社をおこすにはまず金があるぞって言われた。お前にその金を集められるのかって。親の名前を出さずに資金を集められるのなら勝手にしろって…

城戸 …

葛城 色々な知り合いにあたってたよ。でも誰も首を縦にふらなかった。僕がホクオーの社長の息子だって知ってる人も、親が手伝わらないなら金は貸せないって。同窓会に行ったのも誰か貸してくれないかかって思ってた…

城戸 …話が違うじゃねえか

葛城 本当に、ごめん。だから、城戸君が条件つけずにお金を貸してくれるって言ったとき、心苦しかった。だから、何かしてあげられたらって城戸 どうして最初からほんとのこと言わなかったんだよ！

葛城 ごめん…

城戸 お前が本気で苦しくて、なんとかしたいって本気で思ってるって勘違いしただろ

葛城 本気で苦しいよ！本気で抜け出したいと思ってるよ！みんな幸せになってほしいって気持ちもずっとある！

城戸 それは知ってる。お前は昔からバカだったよ。でも焦りすぎだよ、もっと準備しろよ、お前にあるのは気持ちだけだろ

葛城 気持ちだけで会社を建てちゃいけないの？城戸君は、どうだったんだよ

城戸 俺は…大学の奴らと自分たちが作ったアプリを世界中の人が使うようになったら面白いな…って。ああ、確かに俺も気持ちだけだった。でもお前のやってることは現実的じゃない

葛城 最初はみんなそうだろう！現実じゃありえないことを目指すからわくわくするんじゃない、面白いんじゃない

城戸 葛城…

葛城 高校卒業したときに、十二年で大金持ちになってるって思ってた？十二年会えなくなるって思ってた？ずっとずっとバカみたいなこと言い合いながら一緒にいるって思ってた？マスクつけっぱなしでどんな顔だったか思い出せない、こんな世界になるって想像してた？現実じゃありえないことしかこの十二年起こってないじゃないか！

城戸 …俺はちよつとまともになりすぎたのかな…

そこに田村と佐々木が現れる。

田村 はいはい、そこまでしてください

葛城 え！田村！佐々木さん！なにしてるの

佐々木 バイト

城戸 バイト？

田村 今回の話、なかったことにしてください。葛城君のお父さんからのお願いです

葛城 父さんが？なんで父さんのこと知ってるの？

佐々木 同窓会に行く前に連絡があったのよ。葛城君のことが心配だから見張っててくれて

葛城 何が心配？

佐々木 勝手に盛り上がって会社作ろうとしてるけど、変な会社を作られたらホクオーの看板に傷がつくって

城戸 …そりゃそうだ

田村 会社ごっこは終わりです。解散してください、解散

葛城 何がごっこだよ、僕は真剣なんだよ

田村 なんでもいいんだよ、俺は！ただ会社作りを止めて来てって言われたの！だから止めるだけ

佐々木 葛城君、私のこと好きだったんでしょ？じゃあお願い、今日はあきらめて。そしたら私たち、お金もらえるのよ

葛城 そんなの、いくらなんでも聞けないよ。田村、友達だろ？なんでこんなこと引きうけた

田村 友達って、同じ高校ってだけだろ。皆様、もちろんタダでは言いませんので

佐々木 まず城戸さん、今回の話をなかったことにするのなら、文房具娘、ホクオーの文房具売り場とコラボしてもいいそうです

城戸 そりゃありがたい。イベント考えるだけで毎月大変なんだ

佐々木 そして角川さんと米山さんは、ホクオーで採用してもいいって

米山 え、ほんとですか

佐々木 はい、今の状況を社長に話したらまあいいだろうって。角川さんなんて本社勤務ですよ

角川 嘘！

佐々木 智香さんはアルバイトリーダーから正社員目指して頑張ってください、とのことですよ

智香 はい！

葛城 二人とも、今までの話聞いてたんでしょ？こんなやり方、いいことだと思いの？佐々木さん、そんな人じゃなかったよね

佐々木 ……そういうのどうでもよくて、私はあなたのお父さんからお金をもらいたい、それだけ

葛城 みんな、行っちゃうんですか？ユジンドレーブ、やりがいがありますよ。楽しいですよ

米山は立ち上がる。角川は立ち上がり智香もついて立つ。

葛城 あれだけ偉そうなことを言っていたのは全部嘘なんですか！やりがいとか、僕が社長だから働きたいとか、全部嘘なんですか！

城戸 やめろ、無駄だ！こいつらにとっちゃ願ってもない条件だ、あきらめろ！もう俺たちはガキじゃない。金には勝てない。人は去っていくも

んだ…

葛城 城戸君は…どうするの

城戸 いい話だと思うよ、当たり前だろ

葛城 そうだよ…

佐々木 じゃあ、行きましょう

葛城 ありがとうございます

米山 ……

葛城 みなさん、ありがとうございます

角川 ……

葛城 夢を見れました。このメンバーで会社を作って、どうやれば面白いことができるか話し合っ、喧嘩もして、でもお客さんからの評価はすごくよくて…そんな姿を一瞬想像できました。だから、ありがとうございます。お元気で

智香　：

城戸　葛城、最後に一つ聞かせてくれ。なんで俺にも、家族のこと隠してたんだ？高校の時なら、相談できただろ：

葛城　黙ってごめん。ずっと親から、お前はバカだから、絶対に家が金持ちだって知られちゃいけないって言われてた

城戸　：

葛城　深刻にとらないで。それは本当だから。兄弟でも親戚でも僕だけ何もできなくて：みんなには悪いけど、高校も、親の行ってほしい高校じゃなかったんだ：

城戸　そうか

葛城　何度も自立しようとしたけど、言うことを聞いときゃいいんだって怒鳴られて、僕のやりたいことはやらせてもらえなかった。でも親には感謝してる：こんな僕でも不自由なく生きていられるのは、全部両親のおかげだから

城戸　ああ

葛城　でも、今日改めて思ったよ：許せないこともある：

城戸　なんだ

葛城　城戸君に謝らないといけない：

城戸　なんだよ

葛城　：ロスコに呼び出されて卒業取り消しだって言われた夜、めちゃくちゃ怒られた。また恥をかかせるのかって。料亭を頼んだり、ロスコに金渡したの父さんだよ。そして：

城戸　なんだよ

葛城　城戸君とは二度と関わるなって言われた：

城戸　高校出たとたん連絡がなくなったのは：

葛城　ああ。親の言う通りにしたんだ

城戸　めちゃくちゃ心配したんだぞ：

葛城　ごめん。でも、生きていくにはそれしかなかった。僕には力がないから

田村　城戸、早く行こうぜ

城戸 俺はやめとくわ

田村 なんで？もしかして、情に流されたの？

城戸 俺はずっと高校で葛城とバカやってきたんだ。たまにはバカに戻るのも悪くない

米山 ……

田村 なんだよそれ。どうする？城戸以外を引き離したって言うか？

佐々木 お金もらえるなら私なんでもいい

米山 バカはここにもいるぞ

田村 え？

米山 俺もクソみたいな親父だけだよ、思ったことと反対のこと、言ったりやったりするかもしんねえけどよ、でも智香の幸せを考えてるんだ。

許せねえよ、子供は親のおもちゃじゃねえ。そんな奴の下で働くなんてまっぴらだ

智香 また自分のこと棚に上げて、よく言うよ…すみません、父が許してくれなさそうなんで、私も行けません

佐々木 わかっています？行かないとさっきのいい話、全部なくなるんですよ

角川 自慢じゃないけど、私、ホクオーなんて目じゃないくらい大きな会社にいましたの。その程度の会社なら引く手あまたよ。お断りします

葛城 ……

城戸 …お前ら、何やせ我慢してんだよ、気にするな、行けよ

米山 やせ我慢だよ。でもな、智香が自立したら、そんなに金もいらねえんだ。今の仕事でもなんとかなる

城戸 ……

田村 ちよっと！お前ら頭おかしいのかよ！

佐々木 あと五秒でさっきの話なくなりですよ！五！四！三！

茶畑 二、一。はい、ご一緒される方はいませんね。これ以上ここで騒がれると他のお客様のご迷惑になりますので、お引き取りください。あ、

アイスコーヒー代、三千円頂きます

田村と佐々木は逃げるように去っていく。

葛城 みなさん…ありがとうございます

角川 いえいえ

城戸 …

葛城 どうしたの、城戸君

城戸 ああ…いや…

葛城 本当にごめん。勝手に縁を切ったの、ずっと心残りだった。同窓会でも、先に顔を見てたら逃げだしてたかもしれない…

城戸 マスク、さまさまだな

葛城 ああ

城戸 いや、俺も悪かった

葛城 なにか？

城戸 もっと本気で前と連絡とろうとすればよかった。それと…

葛城 …

城戸 みなさん、すみませんでした

米山 …

城戸 悪いことばかり言って…

角川 いいのよ

茶畑 本当に悪い人ですから

城戸 本当に悪い人なら、あいつらについて行ったでしょ

米山 バカなだけだよ

城戸 いえ…

葛城 …

城戸 感動しました。久しぶりに、純粋に、一緒に働きたいっていう人に出会えました…

葛城 え？
角川 じゃあ…
城戸 ユジンドレーブ、作りましょう。感動させる会社、作りましょう
葛城 いいの？
城戸 ああ
智香 やったー！私も参加していいんですか
城戸 いいんじゃない、社長、バカになろうぜ
葛城 ああ
城戸 お前、何ウルウルしてんだよ
葛城 だって…
城戸 じゃあ初仕事だ
葛城 え？
角川 もう始めるんですか
城戸 当たり前だ、客はもう来てるんだから
葛城 誰？
城戸 ユジンドレーブの一番目の客は俺じゃない。葛城、お前だよ
葛城 え…
城戸 社長が元気じゃないと部下に示しつかないだろ
葛城 僕は元気だよ
城戸 どころだよ、親の顔色伺ってこれからも生きていくのか？まずその決着をつけてこい
葛城 怖いよ
城戸 わかってる。だから、ユジンドレーブがあるんじゃないか
角川 …

米山　：

智香　：

葛城　ああ、そうだね

城戸　じゃあ葛城を勇気づけるぞ

角川　どうやって？

城戸　お前の仕事は？

角川　画家：

城戸　じゃあ絵の準備だろ！（智香に）お前は応援の準備！

智香　はい！

茶畑　汚さないでくださいよ！

城戸　汚したら弁償するって！おっさん、ボーっとするな！酔ってる場合じゃねえぞ、ビール片付けろ

米山　お前、誰に向かって

智香　お父さん！一緒に働くんですよ

米山　え：いいの？

葛城がにっこりと頷くと、米山は張り切って片付け始める。

全員がテキパキと動いて絵の準備が整う。

城戸　じゃあ葛城、描いてくれ

葛城　心を描けばいいの？

城戸　違うよ、俺たちを描くんだ

葛城　肖像画？：ロスコに怒られた課題だ：

城戸　今考えたらさ、お前はとうに芸術を知ってたんだ

葛城 どういうこと？

城戸 天ぶらか何か食つてるときにさ、ロスコがお前に聞いたんだ。どうしてあんなバカな絵を描いたんだって

葛城 城戸君を、神々しく描いたやつ？

城戸 ああ

葛城 なんて答えたっけ？

城戸 僕は、城戸君が本当に神様に見えたんです。だから城戸君を神様の姿で書きました

葛城 …

城戸 さっき思い出したんだ。俺そのとき、じんときたなって

葛城 行きたくなかった高校でさ…正直なじめなかったんだ。そのころはもう親に絶望されてたし…どうでもいいやって…でも城戸君は友達を作

ろうとしない僕に声をかけてくれた。こいつ面白い奴だぞってみんなに言ってくれた。結局…ほとんど二人でいたけど

城戸 だからさ、今のこのメンツがお前にどう見えてるかなと思ってな

葛城 …

城戸 正直に、見たまんま描いてくれ。そして、それを持って親父と戦ってこい

葛城 …わかった

城戸 ちゃんと描けよ、そのわけわかんない絵より高い絵になるんだからな

葛城 なんて？

城戸 俺がそれ以上の値段で買い取るからだよ。そういうもんだよな、芸術って

角川 知りませんよ。でも、私たちにとっては、それだけの価値になりそうですね

米山 俺にもわかるように描けよ！

智香 だから違うんだって

葛城 静かにして！僕が、思うように描くから

城戸 ああ、それが一番だ

葛城は絵を描き始める。

葛城の絵が完成すると葛城は立ち上がり客席のほうを見る。

葛城以外のメンバーは去っていく。

葛城 これが僕の同窓会の日でした。城戸君の指示で角川さんはオフィスの確保に走っています。米山さんは高校を中心に営業に走っています。智香さんは城戸君の横でビジネスの基本を一から学んでいます。ユジンドレーブは動き出しました。もう、止めることはできません。…はい、わかっています。すぐに失敗するかもしれませんが、でも、僕は僕の人生を歩きたいんです。勘当だというのでしたら、受け入れます。ただ、一つだけわかっていてください。僕は、お父さんも含めて世界を幸せにしたいんです。この仲間たちと、いつか認めてもらえる日が来ることを祈っています。それでは、行ってきます。お父さん

葛城は一礼すると去っていく。

葛城が描いた絵は輝いている。

了